

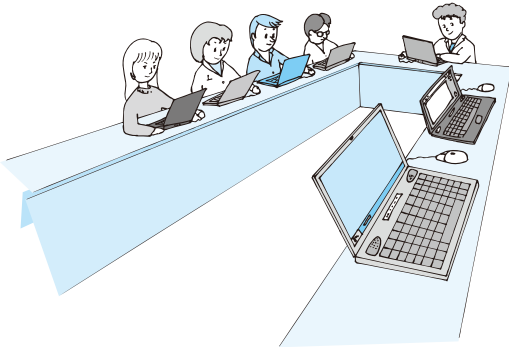
一般質問…ここが論点

3月定例会

3月市議会定例会中、3日、4日の2日間で、4人の議員が会派を代表して質問し、4人の議員が個人質問を行いました。その中から主なものを要約して掲載します。

詳しい内容をお知りになりたい方は、3月定例会会議録を市立図書館などでご覧いただくか、市議会ホームページの会議録検索システムをご利用ください。発行・掲載はいずれも6月上旬の予定です。

また、インターネット録画中継も実施していますのでご覧ください。



蒲郡市政クラブ
代表 鈴木八重久

平成22年度の財政状況について

問 市税をはじめとする財源の確保はどうか。

答 市税全体として、滞納繰越分を含め、前年度と比べ約6億円、4.5%減の12.6億円ほどを、地方交付税は、平成21年度の交付実績を若干上回る14億円を見込んでいます。

問 税の収納率と収納率向上のための施策は。

答 平成21年度の収納率は、市税全体で前年度より

1.9ポイント下回っている。向上対策として、引き続きの県の市に対する徴収支援と、滞納整理業務を行う組織を設立できるように東三河5市で研究会を立ち上げ検討している。

効率的な行政運営の推進について

問 再任用、非常勤職員を含めた職員数の状況は。

答 平成21年4月1日現在、正規職員1063人、

再任用30人、非常勤109人、合計1202人。ほかに非常勤保育士38人、非常勤看護師17人である。

問 集中改革プランに基づく新定員適正化計画に沿った削減状況は。

答 平成17年4月を基準に、5年間で140名、11

・5%の削減目標を定め、既に1年前倒ししてクリアしている。また、今後必要人員の精査を行い、適正人員の確保に努める。

問 市民の利便や快適な暮らしのためには近隣自

治体との広域連携が不可欠と考えるが、どうか。

答 東三河広域協議会や、東三河広域観光協議会、また、名鉄西尾・蒲郡線対策協議会など、すぐに結果が出るもの、長い目で見ていかなければいけないものいろいろあるが、いずれも積極的にいかかわっていきたい。

市民病院の健全運営について

問 医師の確保、勤務医の負担軽減、健全経営への取り組みは。

答 2月1日の常勤医師数は42名で、年度当初に

比べ1名増。医師の確保は、大学医局に対して積極的な働きかけを心がける。勤務医の負担軽減は、不要不急の受診を控えていただき、勤務医対策としてのシェアリングを考える必要がある。

また、健全経営については、経営という財政的な視点と地域に対して医療を維持するという意味での体制は、分けて考えねばと思う。

問 病院と診療所の連携への取り組みは。

市民病院



答 診療所の先生方と病院との連携は健康を守っていくために、必要な役割で、連携を充実してやっていきたいと考えている。

福祉の充実に
向けての施策は

問 高齢者割引タクシー制度導入の目的は。

答 高齢者の方々の方々の確保を目的として、運賃の一部を助成することで社会活動の範囲を拡大し、自立更生し、外出支援の促進